

未就学児が震災時の防災行動を学ぶには

3424A

遊びで学ぼう！

序論

仮説: 新ルールを加えたかくれんぼによって未就学児は防災行動を学ぶことができると考えた

本論

気仙沼高校第一学年の生徒を対象とし、「幼少期楽しかった遊びについて」のアンケート調査を行った。その中で最も多かった「かくれんぼ」のルールを改変し、未就学児でも防災行動を学ぶことのできる遊びを作った。その名も…!

～防災かくれんぼ～

◎ルール

- ・先生が津波の鬼役を担う
- ・隠れる場所を安全な場所(避難場所)とする
- ・鬼役は津波や地震など、その都度変える(今回は津波)
- ・鬼は危険な場所から捕まえていく
- ・なぜそこに隠れたかを聞き、安全な場所を教える

◎調査・実験方法

- 1 未就学児が学びやすい防災教育はどんなものか
★先行研究を参考 ⇒ 防災教育に遊びを取り入れる
本研究ではかくれんぼを遊びとして取り入れる
- 2 独自のルールを加えた遊びを保育所で実行
 - ・防災かくれんぼで遊んでもらう
 - ・実行後は園児に振り返りを行い、防災行動が身についたかを調査する

調査対象: 岩月保育所の園児12名

「よーいどん！」
一斉に避難場所に
隠れる子どもたち



海側は青色で表現し、
避難場所は3つ設置
してあります！



「遂に津波が迫って
きたぞ～！」



結果

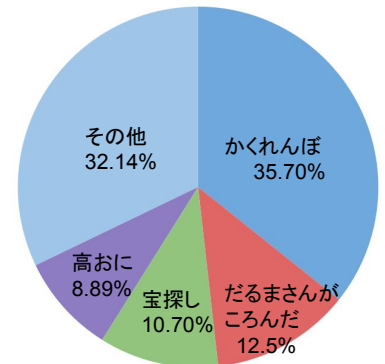
- ・海に近い場所に避難してしまったが「こっちだよ」と園児が園児に教えていた
- 防災行動として素晴らしい
- ・津波について知っていたが、遊びを通してより理解が深まった
- ・翌日「津波の映像は怖がるから見せていない。遊びで学ぶことができるのはすごい」と保護者から言われた。

結論・考察

- ・未就学児は遊びを通して防災行動を学ぶことは可能である
(自分の意志でどこに避難すればよいかわかるようになる)
- ・避難訓練の一種として活用できる
(マンネリ化防止になる)

気仙沼高校1学年対象楽しかった遊び

- かくれんぼ
- だるまさんがころんだ
- 宝探し
- 高おに
- その他



(反論に対する反論)

Q遊びをすることによってふざける人がでてきてしまう
→遊びを実行する前に震災の恐ろしさを教える

Qわざわざ遊びを用いなくてもいいのでは
→近年疊しの防災教育をしないよう心がけている

Q恐ろしさを教えてしまったら疊しの防災教育になってしまう
→命や財産に被害が出てしまうがこの訓練をすることによってリ
スク軽減につながると前向きに伝える

協力

- ・宮城教育大学:O教授(FW)
- ・かやの実保育所様(FW)
- ・岩月保育所様(実験調査)



参考文献

「鬼ごっこ等のゲームを通じて小学生の災害発生時の判断力を高めることは可能か」(先行研究より)